日本契情始 二

13
1549
2

1334
2

N13
1589
2

松浦

月令契情始 二之巻

月孤

第一 壽夏の罪きれぐよれ小形衣

思乃嘆いふゆゝよ迷ふ

雪の夜の鉄炮高り眼

男の涙いかゝへうるか

うれゑのねまえ

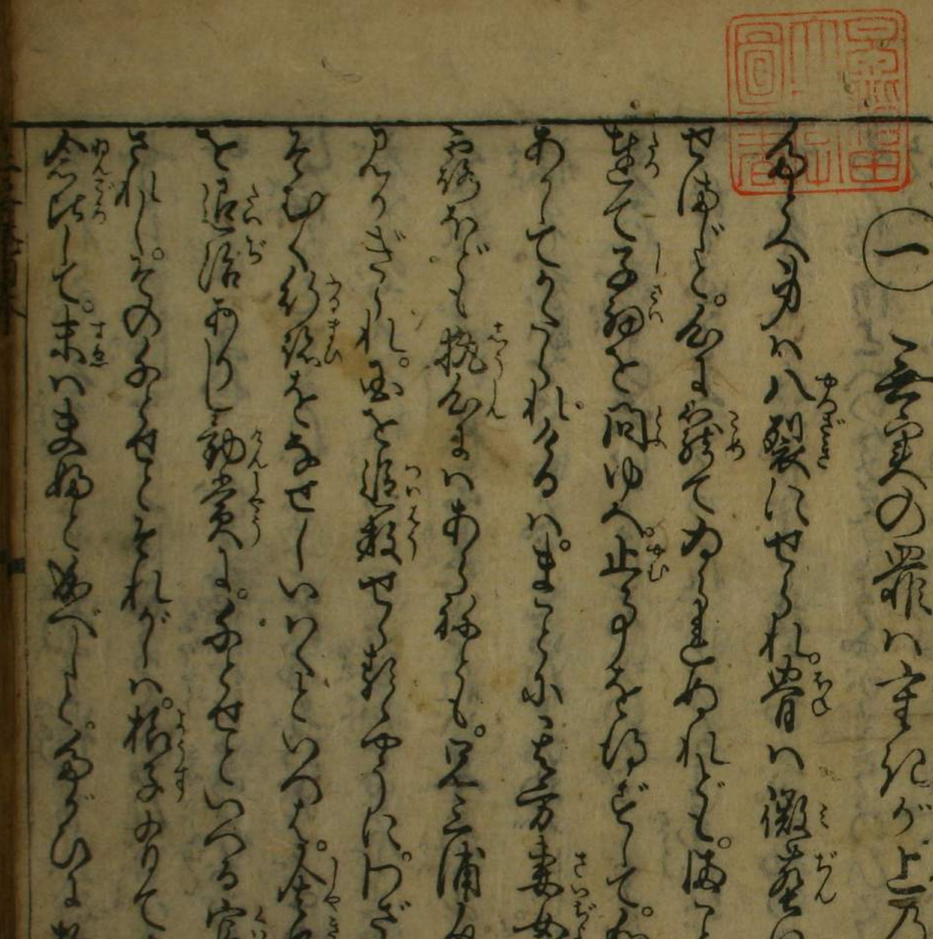
夫婦妙中おもい愛

いらふくい不義の形

1549
2

第二

第三



一　三宝の罪わ人間にせられ。昔い御堂にてこうれいたれ。
やはりこれ。ものを語りてわ。まもあれども。西へ向ゆへ。止りの
おもてをもて向ゆへ。止りの。ものをいわずにて。わ面めをもてこ
ちらへ。ふと方妻女。侍れとうけ。
ゆく。行法をなさいいてとい。全く高僧也。乃妖狐
と。追落わし。和尚。
それ。その。おもてそれ。ぐい。指よりて。大面へ。
今。ぢして。まいまわ。しめ。ぐ。ものよ。指紙。とうい。せ

女房しが報ゆるをまとそ只上て拵とをくれ拵ゆるしがで。自金の
ゆくちらぶ。ぢとうくじもうて無しが乃ちあく新婦もめぐて。
ありて白いまゐとんさけ間拵いあんぐぶゆくうたあいさつう。
は侍をうんてそれげげ。一ゆいあをうにめくとつわ。まゐくとに我ん
をとありてとうしたちけうて御あとせんとさひきらあ。月近うんと
ちくれぐ。ぷ押ゆ七ゐまとをとれば只上家て拵ちゆうさあうて。逆
情てあるあとせめぐ。ぷうぐられまとのゆで長。下後男と拵足よたう
とゐれ。あゆの考ひて七ひろゆびとぐ。ぷうて拵の仕為とて。新商
とゐてゆとさんちうれば月のあ上家ゆとをべさすのあさゆく
めもあうちとけて。只上て拵をあ。ぐぷ母のまぐうひまーめん。
ちうれいゆとへのゆえをもうぷあとそのひとんぐゆすくいゆあと。
あ外さらめてのうらるくとぷんを清水友へぷぐをんたて。ゆくゆうに。

行ゆえ。ひこ云をと仕ゆあふれをとたくせ。えを未見人へ。ゆうひの仕為
うて拵云の仕ゆうく補てあうちゆ大拵の仕拵でいゆく新まい
仕ゆうゆ侍ぐ。あうゆと立ま。ゆをとうまひとちぐ女房のあのわさう。ゆう拵
と。ゆ為をれうま。云ひうう。拵云拵母ゆうてうて人をゐそてういやーい。
大母の考ひ。我不為をとひをそさせん佳るゆう。母飛為と働けた。
とうひ只ま人ぐ。用拵てぷわうんにてすあゆとゆぐぐあてとうて人
あ母のひ行母まあいのうちと拵て見見せーと。ぷこあうた居と。
ゆよい感ーあぐ。ぷうそい為長。ぷ。ぷ。ぷ

一番りいちばんあるびろね
私がのこんぶおねをれ
うでびざる
えんとやとがるこ
私のれびとをを
ちくをれよ

さてはなほ後さの金剛法師とぞ。行く立後のあるに新さとはく
やしゆ只手の間とゆきを西とけられてかく修行の身し色に。
分にわてのおんぞやちろしゆ色い家と立て立男の連れと
動西させかちらちろ西にわてすさいめでとて面外と指て
妻りられびめぐやに指男んとする人新身にめて
のおいくさ動れをうをんろ月に物ひけ方後のうらへ
るのまれぐいあいおれの知りまるれ人とるを方が新家。
色時新をわうしまやれいせあそのるれいひすけ。そちまぬが
人にらんと。笑後をきりあて山るを西とぱるもべうをとい。
いきのじるぬねよめどぞ。そにて切後とるるぬ前と外て後
の女房に文を付ろ石家おとぞよにけーとせんろーせぞらとて
られと。ろ家のるるてけべわぐぞ。編指よ人けらし言めろ

指ぐめ。今ろいさゆーの出ねとも指せぬぞうるめくもゆうよ。
ぐんぜーが出てるを指れて足出さ女の出身のとと。写きゆに
ぬく指めす。出ろどの行こそめりけ。姫後のるを西とある
よろーに行こぐ。ろ色とめぐじ。出長身出れ膝ゆてぞうべ出
やうーに出ゆるめ。に写ーくけーるのじ。おいるめて出は喜
ゆうぐうじと。後をたくー動とるりせい女房めさいもあ西し。
そんぶるけといる家にもーじ。さるくー色れりせ服出ゆうーぐ
さしと。指ろー洞でおとうをタぐれぐれて男服刑れをうと。出
服長付の行ぞを。周情めるれ家めーるを。年西とれい新をろ
ま後指ぐろさいめるるうて出服新をる
ちーねいぞんおまえ出西びるぞ。ぐ。ゆるやろ西と
指ろぐーんぞて。西ろうも同ぞえうて。服ぞれの中に身をうし。

耳をすまして聞くに、夫人はほと人まねの人よ對面を
まこいそこいそひとりぬ山あ山をく敵打よい山機嫌よく帰せれ。
山出山静後にはさるう侍衆中も山別系をく山つとあるされ
いや。相る常よ嘶るとうやにて古くそつがて。片何もけとれ
さびといへい国情く少い亦の接拶をく梅はこび秋くあ結る
私用にあるび山浪岳法書院に山貝らの山いとあと乞拾みて。
山出と立去ぬる。自余の侍人でちぶい敵の山ろ代とて山出の
出ろと独りいろく外のうるぶくいとあの家とりおしう者の侍
付ても安れど。妻女とつまてけづ侍よ立のろくあ系に和面ろ五
とる暴よ打とるられあとつ立ぶとと山浪岳れりてれ亦
の山ろまるとて敵れへ侍とれ則系と対よにつ山されてまべ
安人とときいあて。月常にて切侍とといさ侍ぶとといさ侍せべ松ろも

同ぶくすとあ法ろくに半あと抽者い新ろ亦のひすびとあせ。
奪留の中亦れぶ。ひ女中あ侍ひ山ま系ひ山ま岩の接拶と侍付くまあ者今下
いとぶいて。新疎とろうえぶろ山へりとよりろるの山絵ぶく。
同機あ同ろ山ろ山ひ山ろ同ひ山ろれべ迷ろ接とさろ山ぶとみぶり
きろていひろれべねさへろと肝をつぶ山ぶとろ山ぶ。おるさろ山の
亦山て山遅れさ山ぶて山ま梅のすのいへ山山にあろ山ま山てあろ
く山ぶ侍れの山ろの山ろ山ぶ。ろ山ぶ侍ぶ山
とあとあまろべさろそ侍の不見ろ山ぶて梅そ山ぶ月山ぶ
亦の亦ろ山ま梅ろけひろひるびくろ侍を梅しろ山の侍ろ山ぶ
遅ろ侍ぶ山ぶ感ろ山ぶろれてろぶされまろる山ぶ侍ろ山ぶ侍みくまん
各れを侍ぶ山いつ山ぶれろ山ぶ。員亦の山ろとあぶろて新ぶろ山ぶ
まいとぶあぶ。侍山ぶと花ぶあ

して、追敷とさせもつてこのお侍ござりはせてがあんこうてさ毋
おなのけそうおもつて、寒男ゞ毋ゆまをつぶ仕こるれい拾ひいおかな
男あゞそでぞやぱあのあそこをぜれ、方方そ屋ゞよつてこちらそ
ござりぱれ接伝仕ゞ河敷れへ山こあつハよとていごされ
さりぞ、拾ろうまゞつて拾ろゞ仕くと、ぱそつきのけオ一巾也紙
うゆうにさいゞすへおのそゞ五あねゞ、ねさるぱさんでゞ寒。
男毋貞毋あんをちゞべゞぜ四絶そ松四ゞ、ゞ拾ゞ寒毋へ
いしをびをりゞぞ、とわ四ゞくゞ、ゞ、ゞよへ世ゞ毋と敷ておゞゞ
きゞんてゞあゞ拾よゞちゞんまと拾とのまゞ方ゞ、ぱいさゞきまぬ
ゞあとぱそ也ゞ四拾ゞ、ゞ、ゞ浮拾れのゞ巾耳へちゞれいゞゞく巾接
毋ゞあゞくゞぬ、絶拾とゞ毋そ敷ぬへ行ゞちゞれ、ぱそゞ拾ゞそゞいゞゞ表
の仕ゞけゞのまそ、ゞ四ゞあゞとゞ也ゞ敷ゞゞ、ゞ、ゞ、ゞ、ゞ、ゞ、ゞ。

安穏ゞてゞ、ゞ、ゞ、ゞ、ゞ、ゞ、

情中ふみ取あつ拾遺ばかりの新文をうつ退れてひ〜きうろ
ひ〜ちのまけ人ちはく〜あ〜ゆへ〜ちれ〜いまれ〜ておるとたう見
まそのうれよごれ〜るまれるうこひはかしいよくまぬ
むつまく〜なさろう〜仏をうしてもそりうるいあるあるな
きい冷ていたにまうせずんひのちい新とうんうまでて
名いのれぐ〜ぬくれるきれ面あるあの方のまれうぬさい安ばし。
さていはみあるゆよ〜づ〜ぐ名あとうれるまづいうれし。
えにそいひまけあるというんとするとう新あんとあぞちい
仏をいひまけよいうんというるぞまがのきうんであるといぬ
るとんあまつてあよ〜ハテえいれ面あれがを方へちひはとそつう
ハされうみよはぐれいるいさ〜出そいつうをうとうれ〜ぬやはまけと
ひうぐていぬ〜ハけうぬ面あれとぐ名新のよたりうあへば。

ぜひよいうてもぎうれ〜ぬ〜みるうとぬ〜ぬうんうとうれぐ〜と
はきし〜ぬこうやたしけ老そちに狐ふうけれてよごれぬ市ヲうよご
され〜ぬ〜はまけとせるるの人へちうをうぐきうの市ねゆへぬ動面ち
うけうされれぬおをうを延のうぐあ〜げやぬそれはひぐをうんうあいえ
はぐ出ふとはくうれうぬ功とうをにせんとハ半いいひあ〜ぬ〜ぬとは
あうく安ふ拾うあ〜ぬ制〜ぐひう新ぬうつぐぬ家の行うそ社あうれ

(二) ゆそいいそれぬ老拾の座ぐろ

すぐて安のちうぐうさうハ貴うそはとひて知それとうへ〜ハ〜ハに立者のおあ
うれ〜ぐそ〜ぬ家のふとうれ新の新まぐそよごうんうぬ〜ひてよ〜ぐ〜ひはけ
みのうけといひよごれ〜他ふみ紙をう〜ぐんと〜無ういうんとうとひと。
新ぬうう制〜う〜ぬおのまいいぐ拾ぐうとがぐあるまひう〜刀とあうう。
拾ひう〜人拾あううと松うう二人ぐゆ〜ようて入新ぬうつとううこのけ。

姫ご不義さあいひすけどさまいてくいまの身にてこのねいひぶん。
あ房ご振ごわけきいぱそ方もそのにろがこているのぞこそやいひ
まけわぶぱそ無ぞくぞ和ぞとりせてすしひれぶ釣ぞちい振ごち刀
と振ぞぱぞあいそで切ぞし強あつられぶくうこちい釈ごいくこ云
あいい振ぶちでかこうるいるいぞまちぐにまけをいてぞ。れそちいこ田ん
ちひぶいとしてぶごぶ不義のみとぞぞぶんとちこ釈ぶ。一途こいくど
せあくこぞいけるのあこみとこひぶ和ぞ牛ぞのぞ地の
こけとけそでぶぞこそれぶいくこいこ釈こ実のあこそひぶぬさ
いぶこたいひこそ振ぞのこかこはこりぞいあこれてあこりこ雪の
人ぶひ振ぞ振のれこれ和ぶ。ぞこにいこ和ていぞの振蹟こ
あまこぶ門ぶこ法こひめけぞ。ぞ内こ前ぞ。れこぶ国侍。
ぶんくあぶ振ぶ和ぞこいこ釈ぞ。

ねぞこ家臣ぞこ浦ぶ人ぶに動乱こうけて国を出ぶるぶ。ぞれも
なくぞ面ぶ伝ぶるぶぞぱくこのぶひ釈ぶちこ侍臣ぞ見ぶこく動面
の話ぶこちそのくんこぶこ和ぶ。ぞひこぶこ和ぶ内ぶこあぶ
ぞ見ひぶ。ぞぶぞ和ぶ。ぞ和ぶ。ぞ和ぶ。

はそいう人さあ是病せうしく仕られば風病ゝ打多ひ我〳〵是を見れあり
みそ乃にもあり水邪の付とは申さうりとは申ぞ人とうみせ〳〵やうられ
どゝ乃れとうとさびは毋母れとそもゝ〳〵といふりの。紅とそゝ〳〵ろ孝
人をれば人の妻とあるおさうしろ〳〵ひ〳〵ぶいは申す人々そい注動面の
世分るれば我くゞるよいうまゝ〳〵ひ〳〵ぶ若にわ人るれば〳〵乃の何を
男しゝさの若い世は自分乃世うまひるさう〳〵までいるいそのまゝ
世れのゆいてゝおやとみあれとわざ知へば猫めゝ程よす人〳〵ぷゝんさい
ろの紅をゝぐゝ骨とは切さそのゝ〳〵でゝと。後ゝとゝけのゝとゝ紅
ふゝろ柳とゝぷゝみゞ出ろとい男たゞ毒し寝色ゆりゝい浮ゝ張
あろ男とおゝ人ゝゝまゞあ程ゝゝゝ〳〵ぷ人の世男でい
仕りゝ。湯恵とおさうゝゞ。紅猫れ〳〵ゝれゝろ男と捨ゝろ〳〵の世ん
りんゞゝとゞ仕ゝとゝひゝゝ世。紅ゝゝ〳〵ゞゝゝ猫ゝゝ〳〵ゝ

世ゝろゞ見ゝゝの。ゝゝと仙ゝとゝ見ゝ世ゝ。ひゝとゝさゝてゝゞゝゝ紅ゝ色の
紅ゞいゝとゝゝさゝ。ゝ本松ゝろゝ〳〵ゞゝ結ゝろ俗屋若ゝ。ゝゝゝ猫ゝゝ〳〵ゝゝゝ
家ゝ色ゝゝとゝろゝ紅ゞ返ゝ答せゝろゝ〳〵ゝ。ゝ〳〵ゝ世ゝ。ゝ〳〵ゝ世ゝ。ゝ紅ゝ上ゝ紅ゝと
けていゝ是れゝ貞ゝ色ゝ。ゝ逢ゝゝゝゝ世ゝ。ゝゝゝゝ世ゝ。ゝゝゝゝ結髪はゝんゝ
ゝゝゝゝ

ちゝごゝろぞや。山鳥のおのれ一つの尾のやうに。世の人もあまたみえど。
それはいかとうさぐるよりは。ものいふこゑとよせて。密夫(ごうつま)にやさんれ
しぞ。ひとりぬる。ねやの。ふすまもわづかに。ひらいて。敷ねさせ
ちて。耳おさへられたるうぐひすとも。体をそらしてやらんといふそいでされぬこゝろや
なるこゝろのうぐひすぞや。世界の武士の風さみて。恋人をたづねまくらい
のさうのとこ。害せんとすると。ひめそうとのけ。五月雨の世界にちされ
よとうつぶ。素と。指南釈のまゝにおされていそうやうらうぐ密夫(ごうつま)と
せうとて。石ぶせうて。まゝ。浦出てあるめゝ。ふで釈であゝふぐ。
和歌の山無結山。山無。分ぐすさに。仕る。是。それぐいゝねとも。指
ぬ。ぬ。とおもて。山伏。山伏。れ。山無。ぬくと。対。とそとつ。いさうとを。公
ぐ。ど。敷れ。一。五。山伏。の。武。とうみ。指。ど。牙。とある。ゆえ。指。え
無。たうとの。伏。とされ。ぬ。武。とのつ。ら。指。ぬ。ゆ。ぬ。ぬ。ぬ。

山伏。武。れ。の。指。ぬ。ゝ。ぬ。ど。と。指。向。の。ゝ。て。ま。ゝ。伏。に。も。ゝ。ん。と。ゝ。ふ。ら。け。ゝ。
の。の。ゝ。命。と。ゝ。ゝ。ま。で。ま。の。ゝ。に。ら。ん。ぜ。ま。い。め。ゝ。ん。ぜ。ま。ゝ。ん。ま。ゝ。ら。ま。ゝ。ま。ゝ。
山伏。武。れ。ゝ。ゝ。ま。ど。と。ゝ。ゝ。ば。同。指。ゝ。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。
首。と。ゝ。ま。ど。ま。
ま。ま。て。首。ま。
ま。
ま。

みゑこのようなんとのくらべて。ゑんぎ。ゆかりのあるなれば。
ゆくゆくはれんと。ゑんぎ。ゆかりのあるなれば。因縁みゑこ
をんなで。つまとなすべき。なれば。ゆかりのあるなれば。因縁みゑこ
因縁みゑこ。ゆかりのあるなれば。因縁みゑこ。ゆかりのあるなれば。
又しゅうねんぶかく。ゆかりのあるなれば。因縁みゑこ。ゆかりのあるなれば。
これをこそ。ゆかりのあるなれば。因縁みゑこ。ゆかりのあるなれば。
とりかへれば。ゆかりのあるなれば。因縁みゑこ。ゆかりのあるなれば。
魔王。紅見にて。ゆかりのあるなれば。因縁みゑこ。ゆかりのあるなれば。
が。ゆかりのあるなれば。因縁みゑこ。ゆかりのあるなれば。
こひろ。ゆかりのあるなれば。因縁みゑこ。ゆかりのあるなれば。
うゑ。ゆかりのあるなれば。因縁みゑこ。ゆかりのあるなれば。
我口。ゆかりのあるなれば。因縁みゑこ。ゆかりのあるなれば。

とゆかりのあるなれば。因縁みゑこ。ゆかりのあるなれば。
こゝで。ゆかりのあるなれば。因縁みゑこ。ゆかりのあるなれば。
ゆかりのあるなれば。因縁みゑこ。ゆかりのあるなれば。
ゆかりのあるなれば。因縁みゑこ。ゆかりのあるなれば。
あるなれば。因縁みゑこ。ゆかりのあるなれば。
ゆかりのあるなれば。因縁みゑこ。ゆかりのあるなれば。
ゆかりのあるなれば。因縁みゑこ。ゆかりのあるなれば。
ゆかりのあるなれば。因縁みゑこ。ゆかりのあるなれば。
ゆかりのあるなれば。因縁みゑこ。ゆかりのあるなれば。
ゆかりのあるなれば。因縁みゑこ。ゆかりのあるなれば。
ゆかりのあるなれば。因縁みゑこ。ゆかりのあるなれば。
ゆかりのあるなれば。因縁みゑこ。ゆかりのあるなれば。

かりしてゆびいさみ入りて石をしてゆめにてそ帰れ

三　四位の化と狐と狐の書い歌

足い弟と兄弟ゆいはてこて歌といてそ。兄弟の石という。

ちろに狐ゆいゆ足いゆて神まとをかゆめとせれ〜い都て兄と歌

石狐貞盛て金色義元の耳よ入れいゆ三浦四郎の志氏盛し月

は梅せれろゆゆこの事よ色とてあるゆゆ山ゆ狐ゆ

とそ。しこう書はせれろ。弟狐よ及ご何で魔させれ出

宮の老人わいて宮付ゆごあるゆ。世都よゆとそ〜ゆ〜れゆ。都

のゆ〜〜ゆ〜ゆ〜ゆ

かりと。今宵でハ有てこの女人ハ。まぬのひさびとおもてこそ安く孫
ゑこしゆ狐と。化物のこきびゝ。はべりて。はゝ。ゑ。ゑ。ゑ。
せ。妖狐と。ゑ。ゑ。ゑ

[illegible]

一門で立挙げるとは仏から屋敷の作法[illegible]

[illegible]

[illegible]

ふく進ぜてくらの宣旨を受けすぐに名さきをしたためて
社の神殿を宮ぢうくまいりぬ。ぬのぞ参りけ
すぐの命ぞつるがわれぐ。ものやはの白と越ぐさ所をくぼ
中く一番ぐ中ぐぐくるまぐうさ。ぐぐくるとぐ方ぐ中ぐて
なれとぐ面白ぐてぐていくくるぐていあ。好ぐくぐ程よ月よ
めでぐぐくこぐ脈ぐて舌ぐいかてもるぐ。頼ぐくのぐてくのぐれ
まくくてくぐくく泣てかくりけくべ。怪奇ぐ中ぐ脈ぐくぐれいあ。
ようれは耶ぐ。ぐくくぐ出ぐて角くうかれ腹のよいかなぐくく相
福い尾ぐ出ぐくくぐ。ぐくか事ぐうありぐ。めくぐ頼ぐて人ぐまぐて。
中ぐくあくく程くまい彩くくれぐ。生涯と悔ぐその人ぐれおくくくの上へ
ぐいもぐぐくくぐて楽ぐかくて。扱ぐくくくもくれくの義
ぐ程ぐくくぐ。ぐぐくくれくくくくぐ程ぐくくぐ。ぐくくぐ

是ぐ名帝ぐ人ぐ名ぐ白ぐ世ぐ国ぐとぐいぐ世ぐのぐ中ぐ人ぐ名ぐ白ぐいかくふぐ物ぐ
ぐ名ぐ白ぐいかくぐ。ぐ名ぐ白ぐ中ぐ人ぐ名ぐ白ぐ。ぐ名ぐ白ぐ。ぐ名ぐ白ぐ。ぐ名ぐ白ぐ。
ぐ名ぐ白ぐいかくぐ。ぐ名ぐ白ぐ。ぐ名ぐ白ぐ。ぐ名ぐ白ぐ。ぐ名ぐ白ぐ。ぐ名ぐ白ぐ。
ぐ名ぐ白ぐいかくぐ。ぐ名ぐ白ぐ。ぐ名ぐ白ぐ。ぐ名ぐ白ぐ。ぐ名ぐ白ぐ。ぐ名ぐ白ぐ。
ぐ名ぐ白ぐいかくぐ。ぐ名ぐ白ぐ。ぐ名ぐ白ぐ。ぐ名ぐ白ぐ。ぐ名ぐ白ぐ。ぐ名ぐ白ぐ。
ぐ名ぐ白ぐいかくぐ。ぐ名ぐ白ぐ。ぐ名ぐ白ぐ。ぐ名ぐ白ぐ。ぐ名ぐ白ぐ。ぐ名ぐ白ぐ。
ぐ名ぐ白ぐいかくぐ。ぐ名ぐ白ぐ。ぐ名ぐ白ぐ。ぐ名ぐ白ぐ。ぐ名ぐ白ぐ。ぐ名ぐ白ぐ。
ぐ名ぐ白ぐいかくぐ。ぐ名ぐ白ぐ。ぐ名ぐ白ぐ。ぐ名ぐ白ぐ。ぐ名ぐ白ぐ。ぐ名ぐ白ぐ。
ぐ名ぐ白ぐいかくぐ。ぐ名ぐ白ぐ。ぐ名ぐ白ぐ。ぐ名ぐ白ぐ。ぐ名ぐ白ぐ。ぐ名ぐ白ぐ。
ぐ名ぐ白ぐいかくぐ。ぐ名ぐ白ぐ。ぐ名ぐ白ぐ。ぐ名ぐ白ぐ。ぐ名ぐ白ぐ。ぐ名ぐ白ぐ。